

# 碩 心

社団法人 日本詩吟学院岳風会 認可  
神奈川 碩 心 会 発行

63年7月現在 会員数  
逗子地区 171名  
葉山地区 274名  
大船地区 57名  
(合計) (502名)

63年7月号 (192)  
発行 者 萃 岳  
根 岸 岳 集 者 岳  
編 集 者 岳  
中 村 愛 岳

## 松井岳洋先生理事長勇退

長い間総本部理事長として御活躍いたゞいた松井岳洋先生が、六月三十日を以って勇退されました。長い間ほんとうに御苦勞様でございました。尚今後は総本部顧問として引続き学院発展の為に御尽力下さることになりました。

尚松井先生勇退のあと、竹未岳陽先生が総本部理事長とられましたことを附記いたします。

## 新田岳悠先生県本部長に

去る五月八日の県本部総会に於て、役員改選があり、本部長・副本部長に左記の方が選出されました。

本部長 新田岳悠  
副本部長 根岸岳萃  
岡嶋岳鳳

尚碩心会から県本部役員に左記の通り選出されました。

青少年副部長 加藤圭岳  
事務局次長 竹石憲岳  
横須賀第二副地区長 千葉颯岳

庶務副部長 千葉香岳  
広報副部長 中村愛岳

## 根岸岳萃先生 総本部理事に 上 席 師 範 に

会長根岸先生が総本部総会に於て理事に選出されました。また六月三日付にて、上席師範認許されました。おめでとうございます。

## 加藤岳相先生地区長勇退

十年もの長い間、横須賀第二地区長として誠心誠意お骨折いたゞきました。この度勇退され、後任の飯野秀岳先生にバトンタッチされました。加藤先生には全身をなげうって地区長としての任務を全うされたことに頭が下がります。ほんとうに御苦勞様でございました。

◎ 総本部主催 夏期大学

と き・63年7月30日(土)・7月31日(日)

と ころ・九段会館・農協ホール

◎ 県本部主催 指導者講習会

と き・63年8月7日(日)

と ころ・大津中学校講堂(京急堀の内駅下車)

全国青少年

### 東日本青少年吟道大会

と き・63年8月21日(日)  
ところ・鎌倉中央公民館分館

全国青少年大会は、以前は年一回東京に於て開催されてきましたが、昨年より全国を5ブロックに分割し、各ブロック毎に大会を開催することになりました。

その中で一都七県(東京・神奈川・千葉・群馬・茨城・埼玉・山梨・静岡)のブロックを「東日本」と呼称し、標記大会を今回神奈川に於て開催することになりました。

(傾心会割当左記の通り)

一部(幼年・小学生・中学生)

(独吟又は連吟一題)

(合吟一題) 7名十吟友会

二部(義務教育卒業以上40才以上)

(合吟一題) 5名十吟友・青風会

三部(年令制限なし・除1.2部該当者)

(合吟一題) 35名

出吟料

一部：無料

二部：千円(独吟の場合千五百円)

三部：千円( )

弁当・記念品を全員に配布

故金指萌岳先生

### 吟魂碑に合祀

七月一日地藏寺に於て岳風忌が取り行われ、傾心会からは去る一月に亡くなられました金指萌岳先生が吟魂碑に合祀されました。御家族お三方が列席され、感無量だったこととお察し致します。御冥福を心からお祈りいたします。

### 若葉支部誕生

故金指先生が逗子A支部の一部として担当していられたあとを、千葉先生が引き継がれましたが、今回「若葉支部」として独立されました。メンバーは左記の通り。

- |                     |           |           |
|---------------------|-----------|-----------|
| 521 中村虎山            | 639 平 信山  | 640 土井竹山  |
| 641 藤村翠山            | 642 宮田花山  | 643 山下敬山  |
| 672 手塚寿泉            | 684 横山賀泉  | 744 今村史泉  |
| 823 波田チエ            | 824 佐々木邦子 | 826 生井美知子 |
| 尚 845 三村栄子(七月一日付入会) |           |           |

六月号に傾心会役員一覧表を掲載しましたが、左記記載洩れがありましたので追記いたします。

- |      |      |           |
|------|------|-----------|
| 本部理事 | 沼田義岳 | 葉山副地区長    |
| "    | 松野宝岳 | 逗子副地区長    |
| "    | 木村松岳 | (新)大船副地区長 |

### 逗子亀井地藏尊に詣でて

松和支部 宇都宮徳風

去る四月二十五日十八時半頃、指導者講習会に出席する為、木村松岳先生と共に、桜山下会館に向う途次、逗子会館前の亀井地藏尊の看板の処に、常盤県本部長、県常任理事の先生方がおられましたので、挨拶を致しました処「あなた達は、この亀井地藏に詣でたことがあるか」とお言葉かけられて「ありません」と答えたら「では案内してあげよう」と私達を案内して下さいました。その上「此処は昔、重罪人を処刑した刑場の痕で、この附近一帯から多数の人骨が出土したので、その靈魂を弔う為に地藏尊を建て、祀ったものである」との御説明を伺い、初めてお参りした次第です。時既に夕闇が迫る中、周囲に咲き残った八重桜が靈魂を慰めているかの様に感ぜられ、次の拙詩を作りました。

偶々常盤県本部長の御案内を得て  
逗子亀井地藏尊を詣でて作あり

宇都宮徳風作

- 人骨多数亀井の原  
昔時重罪処刑の痕  
住民弔祭す地藏  
境内の残桜憤魂を慰む

## 碩心会温習会盛会に終る

山の緑も色濃く、快晴に恵まれた六月五日、逗子図書館ホールに於て、第12回温習会が開かれた。

定刻開会の辞に続き「碩心会の詩」大合吟にはじまり、先ずは小学生三人の可愛い吟声でスタートした。舞台上に飾られた見事なさつきの盆栽が、出吟前の緊張をほぐしてくれた。午後の部は昼食休みの後すぐ許証授与があり、根岸会長より励ましの言葉を読み、次は詩舞に移り、尺八の音色と、優雅な舞に堪能した。そしてお待ちかね合吟コンクールとなり、十組の吟白熱、最優秀は一色Aが獲得。後に続く吟も熱が入り、盛況裡に終了、万才三唱で散会となった。

岩崎恵伍

## 横須賀第二地区大会に参加して

各役員の方々の準備も整い、定刻通り9時30分に開会。修礼の後、国歌斉唱で「君が代」を歌う姿は、さすが詩吟大会で堂々たる合唱でした。

今大会は新旧役員の交替時期に当り、プログラムの変更等、役員の方々も大変に苦勞されている事が感じとれました。又旧役員の勇退の弁を聞いて、会の発展の為、後

進に道をゆずる勇氣と、これまでの発展の為につくされた業績に対し、深く感謝の念にかられました。

プログラムも終りに近ずき、いよいよ連吟コンクールの発表となりました。今回は残念ながら碩心会は入賞出来ませんでした。今回は誠吟会の桑波田さん御夫妻による連吟の五位入賞が厳しさの中にもほのぼのとしたいっぶくの清涼剤に感じられ、一段と皆さんの拍手が多かったような気がいたしました。

最後に各合吟に対しての提案ですが、第二地区大会ともなると大合吟が多くなり、全員で練習もまゝならないと思います。そこでリーダーが吟題と起句の一息分だけを吟じ、二息目から全員で合吟に入ったら、過日の「さくらの歌」の如き、千人からの大合吟でもビタリ一致した吟声になる事うけあいと思われるが如何でしょうか。一考に値するのでは？

上村象伍

## 梅雨晴間

佐久間爽岳

六月二十八日、久しぶりに葉山のあじさい公園へ行ってみた。夕方近くであったので、見に来ていた人達が去ると、急に静けさが身をつつむ。

あじさいや白よりいでし浅みどり  
渡辺水巴の句がふとぼんだが、雨上りのあじさいは、あおく炎えるように見えて、源氏物語に出てくる「六条の御息所」の嫉妬心も、あをい炎むらを立てたのではないかなどと思えてくる。

その時聞き覚えのある声階段を登ってくる。もしやと思った声の主は、中村愛岳先生と、森谷美泉さんのお二方であった。

それから楊桃の実がびっしりと実をつけているのを見上げたり、高い所からの眺めは海に新らしい発見をする。森戸神社から名島へつゞく礁のあたりを御殿ヶ原と呼び、源頼朝の館があったとか、話とはび三浦一族が北条に攻められ滅びた新井城のことなど、中村先生が話され三人で詩を吟じる。

折しも光徳寺の鐘が鳴り、帰りかけた時「ほとときす」の声を聞き、みんなで思わず歓声をあげた。杜鵑一声と言いが「テッペンカケタカ」と、何度も何度も繰り返してよく啼いた。声のする場所は、あじさい公園の下の方角で、樹叢の中よりであった。ほととぎすは湿った大気の明け方や日暮れに、折々その声を聞くことがある。

梅雨の晴間、思いがけなく充実したひとときであった。

ゆふぐれの風の雨意かな時鳥 爽岳

練吟  
×七 転音

○六十四年度からの審査課題に一部変更があり、中伝の「天草洋に泊す」が「青山の歌」に替りました。たまたま「青山の歌」の転句の読みで、一部から疑問の提示があり討議されたが、教場によってはまだ意見がまとまっていないようですので、ごく簡単に参考資料を呈示してみます。

○黙して数うれば山陽十たび往返  
右がその転句ですが、問題となっているのは「数うれば」の読みです。「数うれば」が正しいのではないかというのです。結論の前に順序として、ごく簡単に音便（おんびん）について述べさせていただきます。

○音便とは（発音上の便宜から、もとの音とは違った音に発音すること）を言い、現代では国文法として細かい方則が確立されています。そのほかに、もとの言葉から転じた転音、いわゆる「なまり」があります。これらがまた、現代語の表記方法とも関連します。問題は大変むづかしい。

○右の文中「もとの言葉」とは次の傍点の字句をいい、教本の随所に出てきます。

北風に母を送りて還る  
白日山に依りて尽き

散じて春風に入りて洛城に満つ

ところで右の場合、例えば「送って・入って」のように、当然促音とすべきところを教本はなぜか音便を使っておりません。

○恨殺す残紅の飛んで北に向うを

飛びてが（はつ音便で）飛んでとなり、向ふが（ウ音便で）向うとなり、向うに転音

去りてが（促音便で）去ってとなり、向ふが（ウ音便で）向うとなり、向うに転音

○問題の「数うれば」は、文法上はハ行下二段活用で「数ふれば」がウ音便で「数うれば」となった。ここまでは文法で定まっています。この後に異論があるわけで、教本の字づらどおり「数うれば」と読めばそれでよいとする説と、「数うれば」の表記であると「かぞ<sup>オ</sup>ウ<sup>レ</sup>ば」が二重母音になるので転音して「かぞ<sup>オ</sup>う<sup>レ</sup>ば」と読むべきだとする説です。

○大阪ことばでは「思<sup>ウ</sup>・醉<sup>ウ</sup>・誓<sup>ウ</sup>・会<sup>ウ</sup>・逢<sup>ウ</sup>」など、これら動詞で「オ・ウ」と母音がつづく場合は「オ・ウ」が「オ<sup>ー</sup>」と発音される（大阪ことば事典）ことは一応どなたもご承知だと思えます。ともかく、現代語なら標準語ですべて法則が確立してはいますが、文語の発音となるとやはり関西の方がやゝ優位であると思われれます。

（住所変更）

163 守永寿風（新横浜市戸塚区平戸3-57-12）  
（電）〇四五-1825-〇七六七

（入会）

841 河野光子 葉山町一色一八二九

（上原）（電）〇四六八-751-3151

842 時田千代 逗子市久木四-201-3  
（逗子A）（電）〇四六八-719-732

843 松岡節子 逗子市久木四-201-1  
（逗子A）（電）〇四六八-716-140

844 高見陽子 逗子市池子一-71-14  
（逗子A）（電）〇四六八-731-586

845 三村栄子 逗子市池子三-1-10  
（若葉）（電）〇四六八-731-577

846 根岸京子 葉山町長柄三七四  
（長柄）（電）〇四六八-751-〇八六

847 三木好枝 葉山町長柄一六一五  
（長柄）（電）〇四六八-751-〇二九三

（退会）

183 佐藤魁風（一色A）  
398 君和田那山（星山）

488 濱添美山（星山）  
506 岡村修山（星山）

755 村井都代子（沼間）  
782 奈良泰子（松和）